

日時：令和3年(2021年)8月16日(月) 9:30~12:00

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴者：2名

事務局	<p>開会 では、令和3年度第4回宝塚市行政評価委員会を始める。</p>
委員長	<p>市側出席者の報告 企画経営部は事務局が2名、企画経営部長、政策室長が出席している。財政部局からは行政改革室長が出席している。また、産業振興室長が施策の説明のため出席している。</p>
事務局	<p>傍聴希望者の確認 傍聴者はあるか。</p>
委員長	<p>本日の傍聴者は2名である。 既に入室してもらっている。</p> <p>アイスブレイクの実施 審議を始める前にアイスブレイクを行いたいと思う。 <アイスブレイク テーマ：夏休み></p>
事務局	<p>議題 議事録・まとめの確認 <第3回議事録・まとめの説明></p>
担当室長	<p>議題「令和3年度行政評価（令和2年度実施分）について」 議題「令和3年度行政評価（令和2年度実施分）について」に入る。 事務局より説明をお願いする。</p>
事務局	<p>本日の審議対象施策は、「農業」「雇用・勤労者福祉」の施策である。 担当部より施策の説明の後、質疑という形で進める。</p>
産業振興室長	<p>前回の委員会の審議中に質問を受け、後日お伝えするとさせていただいたことについて、回答させていただく。 まず、起業が多い業種や業態、起業後事業が継続されているのかということについて、起業されているのは、サービス業、飲食業が多くなっている。継続については、起業してすぐに廃業という情報は担当に入ってきていないため、規模はわからないが、現在も続けられているという認識である。 次に、空き床店舗の割合については、指標にもなっているが、市場、商店街、商業施設を定点で観測している。アピアさかせがわ、サンビオラ、ソリオ宝塚、ピピアめふと、市が再開発をしてきた駅周辺の商業施設内の店舗や、清荒神や鶴の荘等7つの市場を定点で集約し、総店舗数として分母が449、そのうち空き店舗が92あるということで、今回の空き店舗率を算出している。</p>

委員長	<p>最後に、施策「消費生活」の事務事業評価表の記載がわかりにくいという指摘については、確かにわかりにくい文章であるため、事務事業評価表の記載内容を修正させていただきたい。</p>
産業振興室長	<p>起業支援についてお尋ねしたい。この評価をより緻密に行うのならば、宝塚市の支援策があったから初めて起業することになった、という因果関係を特定していくわけである。地方の自治体であれば、業種や事業者の数が少なく、ノウハウが得られないということで、行政の支援セミナーが有益だと思うが、都会では、民間ベースで教え合いをする等のきっかけがたくさんあると思う。ただ宝塚市の支援策があったから利用してただけだということにはなっていないのか。</p> <p>都市部である宝塚市より地方の自治体と比べれば、宝塚市は民間事業者に任せることができる部分があるのではないかという指摘だと思う。</p> <p>前回申し上げたとおり、行政ができることは主に情報発信の部分になるかとは思っている。予算も限られているので、少しの後押ししかできないが、最後の後押しができるように、サポートできる体制は、我々も、民間の起業家支援施設も、中間組織の商工会議所も、意識高く持って作っていきたいという考えである。これからも変わりなく持ち続けたいと思う。</p>
委員長	<p>往々にして補助金・交付金には先ほど指摘した面があるため、意識して取り組んでいただきたい。</p> <p style="text-align: center;">＜施策の説明＞</p> <p style="text-align: center;">＜各施策審議＞</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】農業 【施策展開の方針】『1 農産物の生産量増加と消費拡大を図ります』</p>	
委員	農業振興施設はどの施設のことなのか。
産業振興室長	農業振興施設は「西谷夢市場」が愛称になっている。産地直売所というイメージになる。
委員	宝塚北サービスエリアは農業振興施設には含まれないのか。
産業振興室長	この二つの施設は全く別のものである。
委員	宝塚北サービスエリアで農産物の直営は行っていないのか。
産業振興室長	常設では行えていない。
委員	指標のイには、宝塚北サービスエリアは含まれているのか。
産業振興室長	含まれていない。
委員	<p>自然休養村運営事業について、自然休養村というのはどの施設のことなのか。また、事務事業評価表を見ると、「監査より委託料での事務執行は不相当との指摘があったため、令和2年度をもって委託を終了」と記載があり、補助金への移行を検討するとなっている。経緯を教えてください。</p> <p>また、7月に文化芸術センターで、西谷朝市を5回開催したと記載があり、良い取組だと思っているのだが、前から不思議に思っているのが、花のみちでは野菜の販売は禁止なのか。センターは良い施設だが少し駅から離れている。花のみちには歌劇がある日にはたくさんの人が通るにも関わらず何も販売されていない。理由があれば教えてください。</p>
産業振興室長	<p>自然休養村センターの運営事業については委託事業となっているが、市が自ら事業を行い、委託できていない部分が多く、以前より、監査の場で指摘を受けていた。今年度の9月補正で一旦委託料を減額し、方法を抜本的に改めるということで、同センター運営に参画いただいている関係者と協議を重ねている。委託は市に成り代わって業務を行うというイメージだが、その中で市がお金の管理に関与するのは問題があると思っている。補助制度に変更し、地域の主体性をもう少し引き出すような、スキームに改めたいと考えている。</p> <p>また、本市のメインストリートである花のみちでの販売は実現したいと思っており、以前から関係者と協議は行っているが、これまで花火大会やお祭りなど露店を市も警察も排除してきた歴史があるなど、様々な課題がある。ソリオ宝塚や文化芸術センターでマルシェのようなものを開いている日があるため、花のみちでも何かできれば、文化芸術センター等への人の誘いができるようになって、まちがさらに魅力的になるのではないかと考えている。課題をクリアし、花のみちを経由して、</p>

<p>委員</p>	<p>文化芸術センターまで楽しんでいただけるように、ゾーンとしてのにぎわいを考えていきたいというのは、今の産業文化部全体の課題である。関係者などと協議を始めているところであるため、時間がかかるかもしれないが形にしたいと思っている。</p> <p>施策展開の方針に宝塚ブランドの育成を図りますとあるが、これは西谷米というお米をブランド化するという事なのか。それとも他の産品があって、何か野菜等のブランド化を図っていくということなのか。指標に設定されておらず、事務事業評価表の中でもみえづらかった。</p> <p>また、農業サポーターについては、事務事業を細かく見ると9名いらっしやって、そのうち1人が新規就農しているということであったため、もう少し新規就農に繋げられるのではないかとと思うがどうか。</p>
<p>産業振興室長</p>	<p>西谷米にブランド価値がついて、高く売れるようになればということも含んでいる。また、西谷には、市花になったダリアや、ダリアの加工品もある。今から策定する第二次の農業振興計画は、農に関する宝塚ブランドの選定資源数を増やすことや、付加価値を高めていくという考え方で策定していく。これまではそういう考えが甘かったかもしれないため、西谷や山本地区の花き園芸を含めて、農業に関するブランド価値を、これから積極的にPRして高めていきたい。</p> <p>農業サポーターや新規就農者の確保は、指標に設定はしているが簡単な話ではない。教えていただける方や土地の確保、販売先等様々な課題がある。農業サポーターや、認定農業者の指導を仰ぎながら、可能な限り若い新規就農者を確保していきたいが、各市もメリットのある優遇施策を打ち出しており、競争が発生している。宝塚の西谷で新規就農したいと思っていただけるようなPRをしていきたい。宝塚で農業に従事しながら暮らしていただくという生活全般のことなので簡単なことではないが、農政課も精力的に取り組んでいるところである。</p>
<p>委員</p>	<p>農業振興施設管理事業について、対象指標に宝塚の販売農家数があり、平成28年度から平成31年度までは370戸で推移していたが、令和2年度は336戸と減少している。原因についてどう考えているのか。</p>
<p>産業振興室長</p>	<p>高齢化と担い手不足が原因と考えている。その数値は国の統計調査である農林業センサスの結果を用いているが、国の統計資料でも数字としてあらわれており、やはり高齢化は大きな問題であると思っている。また、子どものある世帯が西谷地域から転出されていることも影響していると思われる。西谷地域全体の人口減少に伴い、兼業農家数も減少していることは数字として表れていると考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>何か狙いがあるのかもしれないが、この細施策のタイトルである生産量の増加と消費拡大ということに直結した指標がないことについて少し気になったところである。また、宝塚ブランドを作るということもこの細施策の大きな柱であるが、それに関わる指標もない。推進に向けて対応策をとると総合評価されているが、これをどう考えていくかということである。宝塚ブランドについては、確立する見込みがあるということが良いか。商品開発は時々成功しているが難しいというのが実情だ</p>

産業振興室長	<p>と思う。</p> <p>新規の商品開発は簡単ではない。商品が完成した時は良いが、どれぐらい続くかということは難しいところである。今は西谷のダリアが注目され、関連商品の売り上げも好調と地元から聞いている。ダリアを使った加工品は、ダリアが市花になり、市がPRできる立場でもあるため、農政課も商品開発に補助制度を設けて応援しようという動きを始めている。ダリアについては、応援体制を官民連携して取りたいと考えている。</p>
委員長	<p>まちのブランドを生かしてどんどん売っていくということは、宝塚であれば可能であるようにも感じる。今後もダリアや植木の産業を支えていくという現状維持的な方針でいくのか、シティブランドを生かして新しいことを始めるかについて、次の計画の中で見定めていただけたらと期待したい。</p>
委員	<p>ダリアは確かにブランドとして有名である。個人的な意見だが、西谷夢市場は猪名川の道の駅に押されていると感じており、夢市場も人が集えてゆっくりできる場所になってほしいと思っている。</p> <p>西谷地区への転入者は、必ずしも農業には携わっていないと思うが、新しい人が転入されてきたという情報は入ってくる。大きく宣伝をしているわけではないと思うが、新しく西谷に転入されて、蕎麦屋や和食のお店をされる人もいると聞いている。</p>
委員長	<p>地域と調和した暮らしを楽しんでいただけるような方に転入いただきたいということを以前から聞いていたが、そういう方も現実にはいらっしゃるということだと理解した。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】農業 【施策展開の方針】『2 花き・植木産業の振興を図ります』</p>	
産業振興室長	<p>ダリア園は緊急事態宣言の期間が開園時期と重ならなかったということもあり、昨年度、夏秋で初めて来園者が1万人を超えた。ダリアのニーズ、ダリア園の認知度が高まっていることは絶好の機会だと思っている。ダリア栽培の関係者もモチベーションが上がっているところである。先日夏の開園時期を終えたが、例年を超える方にお越しいただいた。民間施設ではあるが、市もPRできる立場にあるので、力を合わせて、付加価値を高めるとともに、身近に楽しんでいただける施設を目指していきたい。</p> <p>ダリア園にお越しいただいた方には、山本地域にあるあいあいパークにも足を運んでいただきたいと思っている。園芸用品を購入いただき、あいあいパークには、飲食をする場所もあるため、ゆっくりしていただける場所にもなっている、園芸というキーワードで、北部から南部まで楽しんでいただくということは意識しているので、関係者と力を合わせていきたい。</p>
委員長	<p>ダリアが良い状況であることには同意するが、もう一つの柱のはずである牡丹園はどんな状況なのか。</p>
産業振興室長	<p>牡丹園の開園時期は4月下旬から5月下旬までであるが、去年も今年も緊急事態宣言の期間と重なり、去年は全く開園ができなかった。そのため来場者数はゼロとなっている。スタッフも高齢化し、不特定多数の人と至近距離で会うのが怖いと運営者側からの声もあった。今年度は、緊急事態宣言前の2日間だけ開園することができ、約300人お越しになった。牡丹が満開で咲いていたので、見ていただけなかったことが残念である。来年度以降は運営事業者が変わる予定であり、不確定要素は多い状況だが、開園できる状況となれば来年度以降もPRなど頑張っていこうと考えている。</p>
委員	<p>現在の牡丹園の管理運営事業者が、指定管理者を退きたいとおっしゃっている理由はなにか。</p>
産業振興室長	<p>主に高齢化が原因である。地元で20年ぐらい運営されてきたが、これ以上市の指定事業で責任を持って運営していくのは難しいと正直におっしゃられている。代替わりがうまくいかず、組合長をはじめ長谷牡丹園芸組合に依存してきた結果、全体的に高齢化して変わらざるをえなくなったというのが実情である。</p>
委員長	<p>運営をしてもらえる後継者が現れない中、市が牡丹園を押し続ける必要があるのか、事業の縮小や終了をするべきではないかという意見が過去にはあった。</p>
委員	<p>西谷には働く場所、施設があり、地域の方がそれを担っていると認識しているのだが、西谷以外からの人にも担ってもらうことはできないのか。西谷に住むことを条件にしても良いと思う。西谷地域の活性化のために、市の施設を有効活用することも重要で、それと同時に外部の力も取り入れると、今までとは違う、良い状態が望</p>

<p>産業振興室長</p>	<p>めるのではないかと感じる。今後多くの需要がある中で、地元の人だけでは厳しい状況を打開する方法は考えているのか。</p> <p>ご指摘の通り、牡丹園の運営事業者が変わるタイミングで、専門家や外部の民間事業者を入れた方がいいのではないかという考えを持ちながら様々な検討を行った。しかし、市も財政が厳しい中、民間にお願いするとなるとやはり価格が折り合わない。民間事業者を入れて、これまで以上の費用をかけて1ヶ月間だけ開園することに対する議論が市の内部でも起こると思う。これまでの歴史と経過を重んじて、地元の方と一緒に取り組んでいくということに双方メリットがあると考えている。地元の方も、地域の活性化や生きがい、コミュニティ形成にメリットがあり、市も民間に費用をかけてお願いするよりも、地元と協働で取り組み、予算も安くお願いできる。これまで相互で考えていたメリットを今後も考えていかざるをえない状況にある。現在は、長谷地区だけでは難しいが、西谷地域の団体で、これまでと同じぐらいの価格で、地元の方に運営いただけないかというご相談をしているところである。</p>
<p>委員長</p>	<p>今委員からあった提案は報告書に記載したい。今の状態を維持するだけでなく新たな発想をという提案であった。牡丹園を急に閉じてしまうことはできないと理解できるが、縮小、維持だけではあまり意味がないと思う。</p> <p>また、この牡丹園の近くにあるすみれ墓苑とも連携し、牡丹が咲いている時期に説明会を行うなど、柔軟な発想で取り組んでいただきたい。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】農業 【施策展開の方針】『3 市民が身近に農業に触れることができる仕組みづくりを推進します』</p>	
委員長	<p>指標にある市民農園の利用者数というのはどういう概念なのか。ホームページを見ると、区画数では250弱ぐらいに積算するとなるのだが、577人の利用者というのはどういう概念なのか。</p>
産業振興室長	<p>現在、市直営の2農園と市が定期的に募集する農園が8園あり、この10農園の区画数が250弱となっている。その他、市内に貸農園は約10園あり、それらを含めた市民農園の令和2年度の利用者数が577人であった。市民農園は、区画数の確保と提供に合わせて、多くの人に利用していただくことを目標にしている。</p>
委員長	<p>小学生や中学生が農業体験をするといった取組はあるのか。</p>
産業振興室長	<p>小学校の遠足や校外学習で利用いただいている学校はたくさんあり、PRになっている。また、農家の方が学校に出向いて、西谷野菜や農産物のPRをするという事業も多くの学校に取り入れていただいている。宝塚でもこんな野菜が採れるんだとか、農業に従事される人ってたくさんいるんだなということ、子どものうちに学んでいただく機会を用意することは、教育委員会と一緒に取り組んでいるところである。</p>
委員	<p>前回この施策を評価した際に、この市民農園事業自体を市が行う必要があるのかという指摘をした。この事業は法律に基づいているものではなく、民間事業者に委ねてもいいのではないかという意味だったが、今回事務事業評価表をみると、事業費がかかっているわけではなく、あえて民間に渡さなくてもいいのではとも思っている。民間に委ねることについての見解はどうか。</p>
産業振興室長	<p>農地法の関係で、農地の取り扱いの変更は、農業委員会の承認や報告が必ず必要になり、市民農園として提供いただく場合には、広報誌やチラシでPRすることを市の役割としている。職員の人件費はかかっているが、都市農地の維持と確保という視点で、人件費以上の効果、成果があると考えている。市民農園のニーズはまだまだ高い状況である。都市部で農地をどうしていくか、ただ単にマンションやハイツにするという安直な方法ではなく、一旦農地のままで貸し出さないかという案内をする役割は、農政課なり農業委員会の方で行う必要があると考えている。</p>
委員長	<p>西谷にロッジを建てて、宿泊で農業をしたいと希望する人は少ないと思う。本格的な日帰り農場、週末農場を作ることが全く駄目だとも思わないが、気軽に行ける農地みたいなものが都市部にある方が良いかも知れない。一般都市には一定緑地も必要であろうし、これまで農地として維持されてきたところで、農業をやりたいという人がいるのであれば、お互いにメリットがある。</p>
委員	<p>農業委員の経験があるが非常に手続きが難しいと記憶している。農地を所有している方からすれば、民間に間に入ってもらいよりも、行政に入ってもらいが、安心、</p>

<p>委員</p>	<p>安全というところで、有効利用に繋がっていると思う。</p> <p>市民農園のニーズが高いことは評価表からも読み取れるのだが、市民農園は景観的に悪いイメージがある。このことも宝塚ブランドに繋がるのではないか。東京の多摩地域だったと思うが、景観誘導もしている。市民農園を単に増やすというだけじゃなく、景観的にも良いという発想でも取り組んでいただく予定はないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>具体的にどういった点で景観的に良くないのか。</p>
<p>委員</p>	<p>恰好が気になったことはないが、道具が雑多に置かれているところが気になっている。</p>
<p>委員長</p>	<p>この施策に関しては、市民が農業に親しめるようにするというものであるから、農業に好印象を持っていただくことが大事であろうということで、市民農園についてもそういう面で、改善できる点があるのではないかという問題提起であった。</p>
<p>産業振興室長</p>	<p>そのことについては様々な見方があると思う。市民農園に住宅地が近接している場合は、トラブルまではいかないが、市が間に入って調整しなければならないことが発生しているのも事実である。周りで住まわれている方と、市民農園を借りて来られている方では認識が違い、様々な価値観の中でのことなので調整が必要な場合もある。ただ、全体としては、素人が小區画で、手づくりで作っているのが市民農園であり、景観上も、素人が頑張っているんだなというように見ていけたらと思っている。農園を借りられる方も入れ替わりがあるが、その都度の調整は農政課で可能な限り行っているところである。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】雇用・勤労者福祉 【施策展開の方針】『1 若年者の就労を支援します』</p>	
委員長	<p>若年者にも様々な方がいて、引きこもりと言っても40歳ぐらいまでであるというのは、この計画をスタートした頃から出ていた話である。この細施策に載っている若年層とは、どういう層を意識して、直近は取り組んできたのか。</p>
産業振興室長	<p>これまでから「就労支援プログラム」を実施してきたが、今年度からはコロナ禍に対応した形式で継続しようとしている。おっしゃるように少しターゲットの年齢層は広く、15歳から50歳ぐらいまでの世代を若年層と捉えるのが担当としての認識である。</p>
委員長	<p>他の自治体では、コロナの状況下だからこそ新卒の大学生と高校生にターゲットを絞るなど、コロナで就職活動も変わっていく中で、困っている人を支援するというのも去年のトレンドだったように思うが、そうしたことに関する取組はそもそもなかったのか、それとも別にいらないのではないかという理解だったのか。</p>
産業振興室長	<p>近隣の大学に出向き、学生部や就職担当の部局の方と行政ができることなどについて意見交換や協議は何度か行っている。大学の方は、専門の就職部や学生部があるため、そんなに困っておらず、精力的に行政が支援する必要はないだろうという認識に立った。ただ、大学の手を離れて卒業してから何年も経った方、大学にそもそも行かれておらず、引きこもりに近い状況の方については、ある程度、手立てが必要という考えである。</p>
委員長	<p>宝塚市においては、中川市長の時に、就職氷河期世代の方の採用の枠を設け、それが大きくニュースにもなり好意的に捉えられていたと思う。ただ、その後、ちゃんと働いているのか、入ってからすごくギャップがあつて困っているとか、その辺がなければ良い政策だったと認識しているが、就職氷河期世代の採用は上手くいっていると理解しているのか。</p>
産業振興室長	<p>我々、雇用・勤労の担当の方には、採用された方の悪い話は全然聞こえていない。</p>
委員	<p>宝塚市で若年層の就労支援をするときに、やはり地元企業に就職してもらおうというところも大事だと思う。例えば、東大阪市は中小企業がとても多く、地元企業と学生のマッチングをととても熱心にやっているが、宝塚市は地元の企業に就職してもらおうよう、マッチングに取り組んでいるのか。</p>
産業振興室長	<p>働きたいと思う就職口と労働力を待っている事業所とのずれをできる限りマッチングしていくのが、行政の役割ではないかと最近痛感している。市内の企業とのマッチングが進むように、対人ではなく、まずスマートフォンアプリで就職口の紹介やスキルアップが図れるような制度も、国の交付金を入れて昨年度から始めている。宝塚市はやはりサービス業や福祉関係の業種で労働力を求めていることが多いので、そういうところも含めて、マッチングが重要ではないかと考えて、手だてを</p>

	<p>打ち始めているところである。</p>
<p>委員</p>	<p>地元で就職した件数やマッチングした件数が分かれば、指標にしてもいいのではないかと思う。</p>
<p>産業振興室長</p>	<p>新たに始めた事業の成果としての数字は一定掴んでいる。新たに策定した労働施策推進計画の中には入れてはいるが、こういった評価の場でも振り返るようにしていきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>ハローワーク西宮を私自身も利用したことがあるが、毎度少しの手続きのために西宮まで出向いて長時間待つことになった。宝塚にもワークサポートがあるのは知ってはいるが、求人を見ることはネットではできても、応募するには、応募に係る証明書みたいなものを発行してもらい、それを受け取ってから応募するという形だったため、それもネットでできたら一番良いのではないかとは思った。</p>
<p>委員</p>	<p>私の職場の求人をする際、近くにワークサポート宝塚があるが、最初に求人する時には、西宮に行ってとても遠い思いをしたので、そこも全部リモートでできたら便利である。失業保険などの関係で直接行く必要があるのだろうが、もう少し利用しやすいようになればと思う。ワークサポート宝塚は便利な場所にあるはずだが、雨が降ると全く人が来ないと聞く。いくら便利なところにあっても行かない人は行かないので、家からスマートフォンでアクセスできるような仕組みができれば良いのではないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>国や県と協力しながら努めてはいただいているところだろうが、一層のワンストップ化、デジタル化みたいな声に対して、何か教えていただければお願いする。</p>
<p>産業振興室長</p>	<p>ワークサポート宝塚は利用者の方の利便性のために、国と市が共同運営しているサテライト施設なので、どうしても西宮の本所に行かなければならない手続きはやはり出てくる。ただ、コロナ禍で来所者を減らす取組も進めており、ネット上でできる手続きは増えているとは聞いている。今後、国や担当者と色々話をしながらさらに利便性が高まるようにできれば良いと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>指標そのものが間違っているとは思わないが、施策評価表に記載の「若者しごと相談広場進路決定者数」について、頑張ってはいただいているだろうが、目的には全然及ばなかったことは指摘しておかざるを得ないと思っている。評価そのものは妥当だろうという結論とする。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】雇用・勤労者福祉 【施策展開の方針】『2 高齢者の就業機会の拡充に努めます』</p>	
委員長	<p>なかなか会員数や受注額が伸びなかったのは、近年の就労環境の変化ということで理解されているのか。</p>
産業振興室長	<p>それは大きいと思う。ただ、シルバー人材センターのPR不足も少し否めないと思っており、市の責任でもあると思っているので、高齢者の方の生きがいと就労に繋がるということを改めて基本に立ち返ってPRする必要があると考えている。</p>
委員長	<p>シルバー人材センターの登録会員数や受注額が今ひとつというのは確かな中で、センター以外の誰かが、高齢者とセンターを繋ぐよう、紹介や定着するまで付き添う人がいれば良いと思う。私の近所に住むセンターの会員の方からセンターでのご苦勞を聞いたりしているが、今のところ熱心な会員の方が、他の新しい人を連れてくるパターンが多いようである。個々の高齢者の方を知っている人が誰になるのかは難しいところではあるが、センターで働いてみたら良いかもしれないという人に勧めてみたり、付き添ったりするような要素を入れたら、少し変わってくるのではないかな。センターの自主性があるから、あまり口出しされても困るだろうが、センターだけに任せるだけでは難しいということがこの10年で分かったのではないかなと思う。</p> <p>家庭に入って掃除など、コロナ禍のもとでどうやっていくか難しさもあったと思うが、そのあたりのコロナ禍におけるシルバー人材センターの問題や課題があったのか。</p>
産業振興室長	<p>会員がそもそも60歳以上の方であるため、外に出るのも嫌だということが去年の春から夏にかけてはあったので逆風を受けた。働き手がそもそも働きたがらないのは致命的な問題になったかと思うが、それでも屋外の作業や働きたい方もいらっしやったため、受注している業務については対応できたと聞いている。</p>
委員長	<p>コロナのもとで安全で安心しながら就労するという面において、市が支援しなくても大丈夫なのか。</p>
産業振興室長	<p>様々な仕事があるというPRや、市も関わった組織だという安心感の提供について、シルバー人材センターをそもそもご存知でない方も含めどうお知らせしていくかについては、行政の信頼や信用力を使っていくことで広がれば良いと思っている。委員長がおっしゃったように、高齢者のネットワーク、口コミは非常に重要であり、このシルバー人材センターについても、会員が新たな会員を呼んでくることは、非常に重要なツールだと思う。そういう高齢者のネットワークの中でどうPRできるのかというところでは、やはり広報誌などをご覧になって来られる高齢者の方が多いので、市の広報誌というのは重要だと思っており、昨年から広報誌などでPRに力を入れ始めたところである。</p>
委員	<p>先ほどの件で、マッチングの話が出ていたが、シルバー人材センターに登録してい</p>

産業振興室長	<p>でも、全ての人が全てのことをできるわけではないと思うが、受注がある分野で、特に受注が多い分野と少ない分野というのはやはりあるのか。</p> <p>シルバー人材センターのスタッフが、日々苦勞しているのがマッチングであり、受注に対して会員さんを手配していくのは非常に重要な仕事である。会員からのニーズが高いのは、公共施設や行政から発出される仕事と聞いているが、指標にも掲げているとおり、民間受注額を増やしていかないとシルバー人材センターは今後先細りになっていくと思っているため、民間の受注を増やすことに取り組んでもらいたいと思っている。</p>
委員	<p>過去に駅前駐輪場の管理をシルバー人材センターが受けていたが、その後の公募で、他市の企業に管理業務に移ったと聞いたことがあるが、その点は確かか。行政支援として、そういうところへの支援の比重はどのように考えているのか。</p>
産業振興室長	<p>5年前に市内の駐輪場の指定管理者が、シルバー人材センターから民間企業に変わったのは事実である。我々の立場では、次の機会には、駐輪場の業務を再度、シルバー人材センターに担ってもらいたいと思ひ応援している一方、駐輪場を利用される方からしたら、利便性の高い駐輪場にしてもらいたいというニーズが当然あるので、シルバー人材センターが利便性の高い駐輪場の運営に参画できるよう、様々なノウハウを集めてもらっている。今年度、現在の指定管理期間が5年経ち、選び直すタイミングにある。まだ結果は聞いてないが、結果を見た上でシルバー人材センターの対応も考えたいと思う。</p> <p>駐輪場の管理が無くなって5年前から会員が激減したのは、指標の推移にある通り事実である。ただ、民間企業に代わっても、働いておられるのは高齢者の方が多く、引き続き雇用していただいている方もいるとも聞いており、高齢者の方の活躍の場になっているのは変わらないが、シルバー人材センターを応援する立場としては残念に思う。</p>
委員長	<p>ご発言いただいているように、10年前はシルバー人材センターを推しており、セクショニックにもシルバー人材センターを推すのが仕事という面もあるが、現在の状況に合わせて高齢者が必要性や働きたい形に合わせて、安全安心に働いていけるという体制が作ればということ、シルバー人材センターから会社に入社する人が結構移ったという面もありなるほどと思う。引き続き、企業も高齢者に働いてもらうという時代に、シルバー人材センターがどうなっていったらいいのか、市としても積極的に働きかけて、この数年間言われている、少し働くというような感じの労働として、良い形で再編されていけば、ニーズもたくさんあるのでないかとは思ふ。</p>
委員	<p>10年前だと、高齢者のための就労の場ということで、福祉的な要素も含めつつあったが、高齢者となっても一生懸命働いたり、賃金がいいところにいたりというのが社会潮流としてあるので、尚更、シルバー人材センターのPRに取り組み、また、競争力をより高めていく時代に入ってきたという感じはする。施策評価表の「VI 総合評価」の中でも、「推進に向けて対応策をとる」としているので、少しPRや競争力の向上という意味で頑張っていく必要があるのではないかと思う。</p>

--	--

<p>【基本目標】 観光・文化・産業 【施策】 雇用・勤労者福祉 【施策展開の方針】『3 働く意欲を持つすべての人の雇用の促進と就労環境の改善に努めます』</p>	
委員長	「就労支援セミナー参加者数」が激減したのは、コロナの関係という理解で良いか。
産業振興室長	そのとおりである。
委員長	「ワークサポート宝塚の就職件数」は、目標に全然届いていない上に悪化しているが、最近ならでの難しさとして、さっきの若年者の件では、本人が望むものと現にある就職先や本人の適性との間に少しギャップがあるということをおっしゃったが、これもその文脈で理解すべきことなのか。
産業振興室長	この指標の件数が多ければ多いほど良いのかと言われるとそうでもない。相談に来なくても就職先が見つかったり、売り手市場の場合は相談には来なくても、適切な働き口が見つかっていることにもなるので、この件数をどう評価するのかは少し難しいと思っている。ワークサポート宝塚は、市と国がサテライトで持っており、一定認知度が広がったり、セーフティネットとして頼っていただける方が増えるのは必要だとは思っているが、就職件数という意味では難しいと思う。
委員長	身もふたもないが、直接就職が決まったり、別のルートがあるなどで、そもそも必要性が減少してきているのではないかという指摘もあると思う。役割が少し変わってきているという見方もできると思うが、近未来のワークサポート宝塚の必要性についてご意見を伺えられればと思う。
産業振興室長	就労支援セミナーも国と市とが意見交換しながら行っており、そこに来られる方がどんな声を持っておられるのかを直接聞ける場所が市内にあることの有益性はともあると思う。必要か不要かという意味では、当然必要だと思っており、国と連携した取組は、これからも必要だと思っている。手続きのデジタル化の必要性が上がる中で、どういうあり方が良いのかというのは、引き続き検討していく必要がある。
委員長	前の総合計画の最終段階においては、想定していた就労支援と実情にずれが出てきたことが指標から見てとれる。コロナやデジタル化が言われている中で、就労の状況は変わっているだろうから、それを的確に捉え、支援に組み替えていただきたいと思う。枠組みとしては引き続き、ワークサポート宝塚とか就労支援セミナーとかになるだろうが、そのやり方や中身をしっかりと見ていただきたいと思う。
委員	特に女性や在住外国人の方の就労がやはりどの自治体も困っている。宝塚市も外国人の方が一定数いらっしゃるの、こういった方の就労環境をどうするかが直近の課題だと思う。施策評価表の総合評価にも記載があるように、ここでも業種や業態のマッチングが大事だと思うので、特に障碍（がい）のある人、女性、在住外国人など多様な人の就労の確保のためには、マッチングを上手くしていく必要があると思うので、そこに力を入れたほうが良いと思う。

<p>委員</p>	<p>労働行政事業について、マッチングはやはりプロの力がすごく重要ではないかと思っており、たまたまその部署になったからできるものではなく、ネットワークやノウハウの蓄積が非常に問われるものではないか。セミナーについてもレベルが少し低い気がする。いろんな分野の人がいるからテーマを設定するのが難しいとか、対面が無理だったから本を配ったと記載があるが、もう少し何か工夫があるのではないかという気がして、やはりここもプロに頼んで、逆に役所の方が学ぶといった行動が必要ではないかと思う。</p>
<p>産業振興室長</p>	<p>ノウハウのある専門の方に託すことには、異議はない。我々だけでできることは限られていると思っているので、ネットワークとノウハウのある方をフル活用して、官民連携でやっていくことは、これからも考えていきたい。</p>

<p>その他</p>	
<p>委員</p>	<p>市としてシルバー人材センターを支援したいという話が聞けて良かったと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>植木のまちの今後の発展についてはどのように思うか。これまで委員会では、市は植木のまちと言うがなかなか取組が見えてこないと指摘してきた。植木産業の人達が自主的に頑張れば良いのではないか、支援だけではつまらない、支援するのであれば広がりが必要であると指摘してきたのだが。</p>
<p>委員</p>	<p>その点で言うと、数年の宅地開発を見ていると、庭がある家が少なくなってきており、その代わりにプランターが主になっていると思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>むしろ植木のまちに近づいているという理解で良いか。</p>
<p>委員</p>	<p>昨日、情報収集のためあいあいパークに行ってきたが、運営に努力されていると感じた。</p>
<p>委員長</p>	<p>今後の西谷地域の展望についてはどう思うか。</p>
<p>委員</p>	<p>西谷の農産物に関してはスポット販売のイメージが強い。サービスエリアもそうであるし、西谷夢市場も、閉店時間が16時で買って帰るという形になっており、まだ通過点なのかなと感じている。 農地については、都市部であれば区画で借りられて自転車で気軽に行ける場所は人気なのだろうが、西谷の農地は人手不足である。市や県を通じて募集も行っているが、西谷にも人が来てほしいと思っている。</p>

委員長	西谷の農産物は、外部にも販売されているのか。
委員	スーパーで販売しているのかわからないが販売していると思う。
委員長	市内だけで消費しても良いのであれば、学校や市役所で全て売れば良いと思う。そうではなく他市にも広げて行きたいと考えているのか、その辺りがよく見えなかった10年だったと感じている。
委員	拡大してほしいと思っているが、市内での販売が多いのが現状だと思う。
委員長	この10年間頑張って取組をされてきたのだろうが、戦略は正しかったのか、今となっては衰退してきたのではないかと、新しい芽も出てきて、チャンスもあるので全てというわけではないが、思っているところである。
委員	シルバー人材センターの仕事の内容が、宝塚市に住む60歳以上の人に合っているのかなと感じた。宝塚市の人は事務の仕事希望される方が多いのではと思うが、そのような仕事がないのではないかな。
委員長	対象者に合う仕事を作らないといけない。私も審議中はオブラートに包んで発言していたのだが、対象者が求めているのはコンサルティングのような仕事のように思え、清掃の仕事を勧めても合わないと思っていた。幅を広げることをセンターに任せても難しいので、市が幅を広げれば良いと思う。
委員長	<div data-bbox="387 1167 475 1196" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">閉 会</div> <p>では、本日の審議を終了する。事務局より、次回の委員会の日時、審議内容等について、説明をお願いします。</p>
事務局	次回（第5回）の委員会は8月30日（月）9：30～12：00、リモートで開催する。施策分野は、「観光」、「文化・国際交流」である。